

インフォメーション・コーナー

会 告

○2022年度（第71回）農業農村工学会大会講演会の開催	72
○2022年度農業農村工学会賞の決定	72
○2023年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10月31日	72
○今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！ 2022” 応募締切 7月31日	73
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	74
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	74
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	74
○2022年度から CPD 利用料等を改定しました	75
○2023年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	75
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	76
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	77
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2022年6月までの編集体制と編集事務局	78
○PAWEES 2022 福岡大会の開催（第2報） アブストラクト締切 7月31日	79
○令和4年度東北支部総会・第63回東北支部研究発表会ならびに第53回東北支部研修会・ 第42回地方講習会の開催（第1報） 11月1, 2日開催	80
○第79回京都支部研究発表会の開催（第2報） 発表申込締切 6月30日	80
○混相流シンポジウム 2022 の開催 8月19～21日開催	81
農業農村工学会論文集 内容紹介	82
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	84
学会記事	85

第90巻第7号予定

展望：北陸農業の未来のために農業農村整備が果たすべき役割：桑原耕一

小特集：北陸の農業農村整備の未来に向けた取組み

報文：国営新川流域二期地区における地域との連携活動：瀬戸太郎ほか

報文：石川県手取川七ヶ用水の大改修：能登史和ほか

報文：福井県あわら市細呂木地区における基盤整備を契機とした新たな地域農業の展開：石川晶康ほか

報文：農業用水路における安全対策の推進：平木叙光ほか

報文：新潟県における水田への園芸作物導入に関する取組み：藤牧洋介ほか

報文：北陸2県にみる農地集積の評価を分ける担い手の多様な認識：山下良平ほか

技術リポート

北海道支部：地区特性をふまえた揚水機場実施設計の最適化：真田栄一ほか

東北支部：地理情報システム高度利用推進事業の取組み：小笠原秀敏

関東支部：代かき期前倒し動向調査を用いた用水需要変化への予測・分析手法検討：西田美由貴

京都支部：中山間地域におけるラジコン草刈り機適用性の実証調査：西尾吉生ほか

中国四国支部：分水工における流量計タイプの選定事例：谷田麻緒ほか

九州沖縄支部：遮水シートと高密度ポリエチレン管を用いたため池改修工法：寺崎信行ほか

私のビジョン：農業土木分野の研究者を目指したきっかけと醍醐味：宮津 進

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2022年6月 20日	農業農村工学会	2021年度全国土地改良優良工事等表彰式/農業農村工学実用新技術セミナー ⓑ	—	東京都	90巻6号
2022年8月 30日~9月2日	大会運営委員会	2022年度(第71回)農業農村工学会大会講演会 ⓑ	—	金沢市 Web形態	89巻12号 90巻1, 2, 4号
2022年10月 27, 28日	九州沖縄支部	令和4年度(第103回)支部大会 ⓑ	—	佐賀市	90巻5号
2022年11月 1, 2日	東北支部	令和4年度総会・第63回研究発表会・第53回研修会・第42回地方講習会 ⓑ	—	仙台市	90巻6号
2022年11月 30日, 12月1日	京都支部	第79回研究発表会 ⓑ	—	神戸市	90巻4, 6号

2022年度(第71回)農業農村工学会大会講演会の開催

2022年度(第71回)農業農村工学会大会講演会は、新型コロナウイルスの感染状況などを踏まえて、対面形式による現地開催とオンラインによる聴講を併用した方式で開催いたします。

期 日 2022年8月30日(火), 8月31日(水), 9月1日(木), 9月2日(金)

会 場 石川県地場産業振興センター(石川県金沢市)本館および新館, オンライン

開会式, 特別講演, 学会賞授与式は現地で開催し, オンライン配信します。

口頭発表(一般講演・スチューデントセッション・企画セッション)は現地で開催し, 現地会場での発表を基本とします。

Zoomによるオンライン配信も行います。ポスター発表は現地で開催し, 現地会場でのポスター発表を基本とします。オンライン上でのポスター掲示も行います。企業展示は現地で開催します。企業展示の概要紹介をオンライン配信します。

現地研修会は, 従来のバス貸切り方式ではなく, 各参加者で自家用車, レンタカーなどを利用して, 大会主催者側で用意した施設を自由に見学する方式で行います。なお, 交流会は実施しません。

大会講演会への参加申込み, 今後の決定事項については, 農業農村工学会のホームページ <http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/> でお知らせいたします。

2022年度農業農村工学会賞の決定

2022年度農業農村工学会賞は, 2022年5月9日(月)開催の第268回理事会において, 学術賞1件, 研究奨励賞3件, 優秀論文賞2件, 優秀報文賞5件, 優秀技術賞3件, 優秀技術リポート賞6件, 著作賞2件, 教育賞1件, 環境賞1件, 歴史・文化賞1件, 地域貢献賞1件, 功労賞2件, 上野賞1件,

沢田賞1件が, 決定いたしました。

なお, 詳細は学会ホームページおよび本誌第7号巻頭2022年度(第71回)農業農村工学会大会講演会のページをご参照ください。

2023年度農業農村工学会賞候補の推薦

2023年度の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く)を, 募集要項に則って, 推薦書によりご推薦ください。

締切は, 2022年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照ください。

2023年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞			優秀賞		
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2017年10月から2022年9月までに発表されたものとする。ただし、その5か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2019年10月から2022年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2019年10月から2022年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2021年10月から2022年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2022年9月までに発表されたものとする。	2020年10月から2022年9月までに発表されたものとする。	2017年10月から2022年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織・団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2012年10月から2022年9月までに発表されたものとする。	2017年10月から2022年9月までに行った活動とする。	2020年10月から2022年9月までに行った活動とする。	2017年10月から2022年9月までに行った活動とする。	2017年10月から2022年9月までに行ったものとする。	2017年10月から2022年9月までに行ったものとする。	2020年10月から2022年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2022年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人または組織・団体	個人	
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2023年度(第72回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2022年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-3-44 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2022”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2022年7月31日(日)17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2022年度のテーマ 「〇〇からみた農業農村」
※〇〇は投稿者が自由に単語を入れてください。
4. 応募資格 どなたでも応募できます。
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、

最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。

7. 賞金 最優秀賞(1作品)2万円
優秀賞(2作品)各1万円

8. アップロード方法

- ① 動画を作成する。
- ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
- ③ タグに3つのワード(jsidre2022, こりゃ映像, 農業農村)を入れる。
- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube 動画の URL）

9. 参考資料

- ・ YouTube に PC から動画をアップロードする方法
<https://douga-tec.com/?p=4974>
- ・ スマホから YouTube に動画をアップロードするには—Android 入門
<https://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像 2021 結果

最優秀賞：田んぼは洪水から地域を守ります 水の守り人たち～防災・減災

野洲川土地改良区 鍋家可捺

<https://youtu.be/j0tjQKuv1A>

優秀賞：【ゆっくり解説】農業農村の歴史を振り返る

京都大学大学院農学研究科 長瀬由佳

https://youtu.be/IUFPqk_aP70

優秀賞：歴史からみた農業農村～富山県常西合口用水～

富山県農村整備課 水落亮佑

<https://youtu.be/y9WGpzWmZyY>

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で 2022 年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）
（※特に記載がなければ (1) として扱います。）

- (2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
・ 気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
・ 頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

- ③ ①, ②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・ 上記①, ②以外、たとえば ICT など新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・ 青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・ 世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額+特別損金算入限度額）が受けられます。

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいませようお願いします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機

構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得でき

る方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等

の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌6号掲載の問題は7月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2022年度からCPD利用料等を改定しました

2022年4月1日よりCPD利用料等を改定しました。

現行のCPD利用料等は、課税対象となった2011年度にCPD利用者の負担増を避けるために内税扱いにして実質的に本体価格を減額し、以降その価格を維持してきましたが、2022年度から税抜価格を当初の価格に再設定しました。また、CPD取得証明書の発行費用を1,500円（税別）に増額する一方で、CPD法人登録者（D区分）の利用料を15,000円/件（税別）に減額しました。改定内容は下記のとおりです。なお、1

機関当たり新たに100人以上がまとめて登録する場合の登録料免除や、30人以上が所属する機関において利用料を一括納入する場合の割引については、それらの制度を維持しています。

見込まれる収入の増分は、喫緊の課題であるセキュリティの一層の強化や利用者サービスの向上を図るためのシステム改造費に充当する計画です。

ご登録の皆さまにはご負担をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

	2021年度まで	2022年度から
1. CPD登録料	953円（1,048円）	1,000円（1,100円）
2. CPD年間利用料（個人）		
・学会員	2,381円（2,619円）	2,500円（2,750円）
・非学会員	3,810円（4,191円）	4,000円（4,400円）
3. CPD年間利用料（法人）		
・A区分	476,191円（523,810円）	500,000円（550,000円）
・B区分	285,715円（314,286円）	300,000円（330,000円）
・C区分	95,239円（104,762円）	100,000円（110,000円）
・D区分（1件）	28,572円（31,429円）	15,000円（16,500円）
4. CPD取得証明書	953円（1,048円）	1,500円（1,650円）
5. 緊急処理費用	9,524円（10,476円）	10,000円（11,000円）

2023年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2023年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、

それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地

域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第91巻（2023年第1～12号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます。なお、六つ切りは203×254 mm、四つ切りは254×305 mm、同ワイドは254×356 mm、A4は210×297 mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5 MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 2022年6月30日

夏季 2022年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したのものに限ります。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第91巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2023年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時

に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りしません。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・建造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版および Web版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版および Web版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方に対して学会ホームページ上（<http://www.jsidre.or.jp/>）での閲覧サービスを順次開始いたします。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願いします。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6

版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名および会員番号を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail にてお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版および Web版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字以内、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第90巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
第90巻第7号 北陸の農業農村整備の未来に向けた取組み（大会特集号）	公募なし
8号 全国の水田水域における生態系保全対策の評価および新手法の適用（仮）	公募なし
9号 みどりの食料システム戦略に貢献する農業農村工学（仮）	終了
10号 現代の農業農村工学技術を支える科学知識のこれまでの経過を考える（Ⅰ）（仮）	公募なし
11号 現代の農業農村工学技術を支える科学知識のこれまでの経過を考える（Ⅱ）（仮）	公募なし
12号 農業農村工学分野における今後の産学官連携のあり方（仮）	6月10日
第91巻第1号 PAWEES（国際水田・水環境工学会）設立20周年記念	公募なし
2号 乾燥地における持続可能な農業に向けて（仮）	8月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

第90巻第12号小特集テーマ「農業農村工学分野における今後の産学官連携のあり方」（仮）

平成8年に閣議決定された「科学技術基本計画」において、産学官の連携・協力が一つの柱とされました。農業農村工学分野においても現場の課題に対して、産学官が連携して技術開発・研究を行ってきました。今後も国内外の農業農村の持続的な発展および、SDGsや「みどりの食料システム戦略」に貢献していくためには、産学官の英知を結集し、新たな技術の開発と社会実装、そしてその基盤となる人材育成を進めていくことがより重要になっていくと思われます。

近年は生産者の高齢化や災害の激甚化など農業農村を取り巻く環境は厳しさを増しています。一方で、日進月歩で進化しているIoTやDXといった技術を活用したスマート農業は、農家の作業負担の軽減や高収益作物の生産の加速化に、またはドローン（UAV）を活用した土砂災害発生状況の早期把握、農薬のピンポイント施用による環境負荷軽減等に貢献しています。また、FOEASやOPSISといった日本独自の地下灌漑技術や圃場水管理システム「WATARAS」^{ワタラス}、農業機械の自動運

転等の斬新な技術が多くの地域で成果を上げています。

これらは産学官が連携して研究開発と社会実装に取り組んだ結果です。研究者、民間技術者、行政が強みを活かし、農業農村を取り巻く時代のニーズにこたえていくことは、これからも重要なテーマです。新規技術だけでなく、これまでの大学や研究所での研究成果を民間の方と掘り起こすことで、現場に活用される技術があるのではないのでしょうか？ 一方、近年はスマート農業技術のように従来の農業農村工学の学問分野の域を超えた技術との連携、農業の成長産業化に向けた農学・経済・流通等の分野との連携等、産学官の連携のあり方も大きく変化しています。併せて、そのような研究・技術の連携の下で、これからの農業農村を担う人材の育成を進めていく必要があります。そこで、本小特集では、これからの農業農村分野における産学官の連携とそれを通じた人材育成のあり方の参考となる報文を広く募集します。

第91巻第2号小特集テーマ「乾燥地における持続可能な農業に向けて」（仮）

砂漠化は、砂漠化対処条約にて「乾燥地域、半乾燥地域、乾燥半湿润地域における種々の要因（気候の変動及び人間活動を

含む）による土地の劣化」と定義されています。ここで、「気候的要因」は気候変動や干ばつ、乾燥化などを指し、「人為的

要因」は乾燥地の脆弱な生態系の中で、その許容限度を超えて行われる人間活動を指します。この人間活動には、過剰な耕作や開墾、過放牧、不適切な農地管理などが挙げられます。

一度砂漠化してしまった土地では、農業や牧畜業などの食糧の生産基盤が失われるため、環境のみならず資源や安全保障、社会経済などのさまざまな領域でも問題が発生します。また、このような土地を回復させるためには莫大な時間や労力、そして予算が必要となります。そのため、土地を砂漠化させない持続可能な土地利用が必要となってきます。しかし、その土地における適切な管理方法を明らかにするためには、その地域の気

象、水質、土壌、品種、管理方法などだけでなく、その土地に暮らす住民の文化や生活様式からの視点も重要になってきます。

さらに、今後は地球温暖化による気温や降水量などの気象条件の変化や、グローバル化に伴う住民の行動や考え方、食の好みの変化などにより、今までは問題が発生してこなかった管理方法に問題の生じてくる可能性も考えられます。

以上から、本小特集では、乾燥地域、半乾燥地域、乾燥半湿润地域における農業生産に起因する諸問題や砂漠化対策の成功例などの事例、解決策に関する提案、将来予測等に係る報文を広く募集します。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」, 「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員

会あてに、ご投稿ください。

なお、投稿票・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2022年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2020年のインパクトファクター(IF)は1.517と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin Lin

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・Editors 13カ国から20名

・Editorial Advisors 30名

・Chief Managing Editor

Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural

Systems Engineering, Seoul National University, Korea

・Managing Editors

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,

National Taiwan University, Rep. of China
Dr. Masayuki FUJIHARA
 Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Dr. Eunmi HONG
 School of Natural Resources and Environmental Science,
 Kangwon National University, Korea
Dr. Toshiaki IIDA
 Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan
Dr. Taeil JANG
 Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk
 National University, Korea
Dr. Kuo-Wei LIAO
 Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
 National Taiwan University, Rep. of China
Dr. Soji SHINDO
 Rural Development Division, Japan International
 Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan
編集事務局 (2022年6月まで韓国担当)
 ・ **Dr. Inhong SONG**
 Department of Landscape Architecture and Rural
 Systems Engineering, Seoul National University

1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA
 TEL : +82-2-880-4581
 FAX : Fax: +82-2-873-2087
 E-mail : inhongs@snu.ac.kr
投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になり
 ます。
投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者である
 こと。
投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載してい
 ます。
発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)
購読料 : 正会員・名誉会員 9,900円 (税込)
 学生会員 (院生含む) 4,950円 (税込)
 非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず
 農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。
 なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度
 からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっていま
 す。冊子体の配布はありません。
申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会
 員番号を明記の上、お申し込みください。

PAWEES 2022 福岡大会の開催 (第2報)

2022年の国際水田・水環境工学会 (PAWEES) 国際集会は、
 2022年11月17日 (木) に、福岡国際会議場 (福岡市) にお
 いて開催します。詳細については、PAWEESのホームページ
 (<https://pawe.es.net/>) をご覧ください。
1. 期 日 2022年11月17日 (木) (予備日11月18日 (金))
2. 会 場 福岡県福岡市, 福岡国際会議場 (4階), ハイブ
 リッド方式を予定
 (日本国内からの参加者は対面, またはオンライ
 ン参加。海外からはオンライン参加)
3. プログラム (案)

午前 : 開会式, 基調講演 (20周年記念), テクニカルセッ
 ション
 午後 : テクニカルセッション, ポスターセッション (オン
 ライン), 各賞授賞式, 閉会式ほか
 (テクニカルツアーの開催は未定)
4. 参加費 表-1をご確認ください
5. 各種締切
 2022年7月末 : 各セッションアブストラクト
 2022年9月末 : 各セッション講演等要旨原稿
 (A4, 2ページ)

表-1 PAWEES 2020 福岡大会 参加費

(日時は日本時間)

区分	事前参加登録 (9/30 まで)	参加登録 (10/1~当日 11/17)
一般 (国内)	5,000円	7,000円
学生 (国内)	無料	
一般 (オンライン参加, 国外, 国内)	2,000円	3,000円
学生 (オンライン参加, 国外, 国内)	無料	

- *1) 上記の参加費には、全体集会参加、各セッション発表・傍聴、オンライン発表・傍聴が含まれます。交流会 (情報交換会, Reception dinner) の開催および昼食 (Lunch) の提供はありません。テクニカルツアーの開催形態は検討中です。
- *2) アブストラクト登録した方は、講演要旨 (A4,2ページ) 登録時に参加登録が必要です。また、学生の方も参加登録が必要です。

令和4年度東北支部総会・第63回東北支部研究発表会ならびに
第53回東北支部研修会・第42回地方講習会の開催（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期日 令和4年11月1日（火）、2日（水）

2. 会場

ハーネル仙台

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 2-12-7

TEL：022-222-1121

3. プログラム概要（案）

[第1日目] 11月1日（火）

- (1) 支部総会・研究発表会
- (2) 情報交換会（(1)とは別会場となる予定）

[第2日目] 11月2日（水）

- (3) 支部研修会・地方講習会

4. 問合せ先

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1-1

宮城大学事業構想学群 千葉まで

TEL：022-377-8205（代）

Email：chibak@myu.ac.jp

5. その他

詳細は本誌第7号に掲載予定です。

なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により、開催形式をオンラインにするなどの変更を行う場合がありますので、あらかじめご了承ください。

第79回京都支部研究発表会の開催（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

(1) 日時 2022年11月30日（水）10：00～17：00

(2) 会場 神戸市産業振興センター

（受付・開会式、表彰式・基調講演・研究発表会）

〒650-0044 兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-8-4

TEL：078-360-3200

(3) 会場までのアクセス

◎電車をご利用の方

- ・JR神戸線「神戸駅」より徒歩 約5分
- ・阪神電鉄「西元町駅」より徒歩 約8分
- ・神戸高速鉄道「高速神戸駅」より徒歩 約8分
- ・市営地下鉄海岸線「ハーバーランド駅」より徒歩 約5分

◎新幹線をご利用の方

JR山陽新幹線「新神戸駅」下車（乗換）→市営地下鉄「新神戸駅」→市営地下鉄「三宮」駅下車（乗換）→JR「三ノ宮」駅→JR「神戸駅」下車

2. 情報交換会

開催しません。

3. 現地研修会

(1) 日時 2022年12月1日（木）9：00～17：00

(2) 内容 現地研修会は兵庫県内の農業水利施設や土地改良事業工事現場の視察等を予定しています。コース等、詳細が決まり次第、京都支部ホームページ（<http://jsidre.or.jp/kyoto/>）内にてお知らせします。

4. 研究発表申込み

2022年6月末日までに、発表希望者は投稿原稿に先立ち、以下の情報を簡条書きにした電子メールを大阪公立大学・中桐

にご送付ください。

①表題（仮題でも可）、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門（水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他）、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。

なお、件名を「発表申込み」としてください。

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1

大阪公立大学大学院農学研究科 中桐貴生

E-mail：nakagiri@omu.ac.jp

TEL：072-254-9647

5. 投稿原稿申込み

(1) 原稿投稿先および期限

2022年7月末日までに、研究発表の申込みをされた方は、投稿要領に基づき作成した原稿（フォント埋込み済みのPDFとMS Wordの両方）と投稿票（MS Excel）を、電子メールで大阪公立大学・中桐までご送信ください。投稿票は、京都支部ホームページ（<http://jsidre.or.jp/kyoto/>）内の「第79回京都支部研究発表会の開催について」よりダウンロードしてください。

※申込みは電子投稿のみで結構です。受信時に事務局より受信確認メールを返信します。

(2) 投稿要領

・発表者は学会員に限りませんが、連名者に少なくとも1名は学会員が含まれることとします。

・投稿要領および原稿の書式については、京都支部ホームページ（<http://jsidre.or.jp/kyoto/>）内の「発表申込み（投稿票）と投稿要領」を参照してください。

- ・原稿の枚数は図面を含めて2枚とします。
- ・発表時間は12分(質疑応答は3分)です。
- ・原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出してください。
- ・発表の補助道具としてパソコン(OSはWindows10,ソフトはPowerPoint)を準備しているため、データはCD-R, またはUSBメモリーをご用意ください。

6. 参加申込み

(1) 参加申込み

参加申込みは、神姫観光(株)を通じて行います。京都支部ホームページ(<http://jsidre.or.jp/kyoto/>)内の「第79回京都支部研究発表会の開催について」にアクセスし、「参加申込み」のリンク先からお申し込みください。

(2) 申込期限 2022年8月31日(水)

- (3) 参加費等 研究発表会(会員) 3,000円
 研究発表会(非会員) 4,500円
 現地研修会 4,500円(参加費3,000円,
 昼食代1,500円)^{*}

(ア) 昼食

研究発表会では弁当などの準備はしていませんので、各自会場近辺の飲食店等をご利用ください。
 ※現地研修会の参加費には昼食代を含みます。学生については、現地研修会参加費は無料としますが、研修会昼食代はお支払いいただきます。

(イ) 参加費の納入

申込み後、京都支部ホームページの案内に従って

お振り込みください。振込手数料はご自身で負担ください。なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(4) 宿泊施設の斡旋

宿泊施設の斡旋は、神姫観光(株)を通じて行います。ご要望の方は参加申込み時に、併せて申し込み願います。なお、客室数の都合上、ご希望に添えない場合がございますのでご了承ください。

(5) 問合せ先

神姫観光(株)「第79回農業農村工学会京都支部研究発表会」担当 田中・岩本
 〒651-2274 兵庫県神戸市西区竹の台1-407-2
 TEL: 078-515-6176 FAX: 078-515-6178
 E-mail: meeting-kobe@shinkibus.co.jp
 営業時間 平日10:00~17:30(土日祝休業)

7. 開催地事務局

兵庫県農林水産部農地整備課
 農村計画班 福永、石原
 TEL: 078-362-3429 FAX: 078-341-2101
 E-mail: kazuki_ishihara@pref.hyogo.lg.jp

8. その他

新型コロナウイルス感染状況により、開催形式をオンラインにするなどの変更を行う場合がありますので、あらかじめご了承ください。

混相流シンポジウム2022の開催

1. 主催 日本混相流学会

協賛 農業農村工学会ほか33学協会

2. 日時 2022年8月19日(金)~21日(日)

3. 会場 オンライン開催(Zoomミーティング)

4. 問合せ先

混相流シンポジウム2022実行委員会

E-mail: mfsymp2022@jsmf.gr.jp

5. その他

詳しくは、混相流シンポジウム2022のホームページ(<http://www.jsmf.gr.jp/mfsymp2022/index.html>)をご覧ください。